

水災害対策プラン進捗について(焼津市)



1.1 持続可能な河道の流下能力の維持・向上 石脇貯留池の改良（石脇川流域）

実施主体：焼津市（河川課）

《施策内容》

高草川の石脇トンネル上流側に整備されている、余水吐の洪水を貯める「石脇貯留池」について、最適な余水吐、越流高を再設定、改良し、貯留量の拡大による下流域の浸水被害の軽減と石脇川の負担軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

- ・ 令和6年度債務負担にて、測量及び整備内容の検討、効果検証を実施。
- ・ 令和7年度に設計業務を実施。

■ 施策実施に係る課題

・ —

■ 課題への対応方針・今後の予定

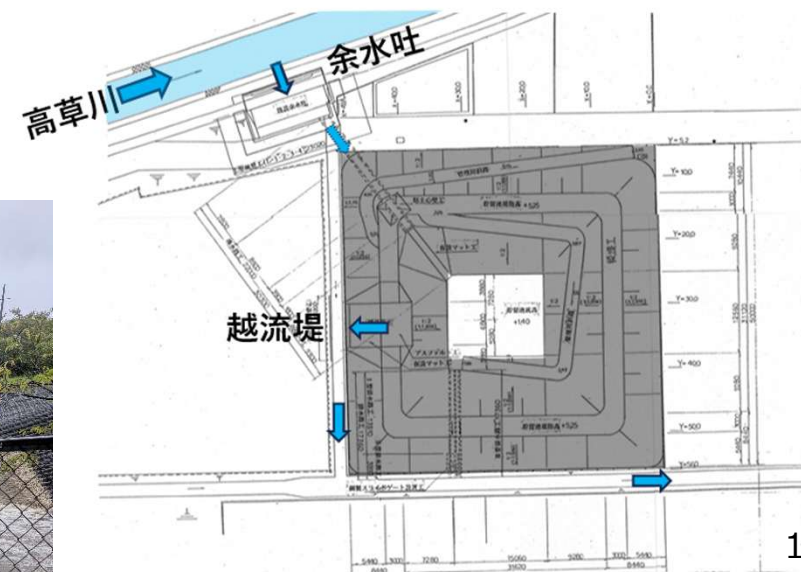
- ・ 令和8年度に工事着手する予定。



余水吐の改良



越流堤の改良



1.1 持続可能な河道の流下能力の維持・向上 浸水常襲箇所での局所的な河川改修の検討・整備

実施主体：焼津市（河川課）

《施策内容》

「高草山と（準）高草川左岸堤防に挟まれた浸水常襲箇所」の水路改修等により、内水氾濫の軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

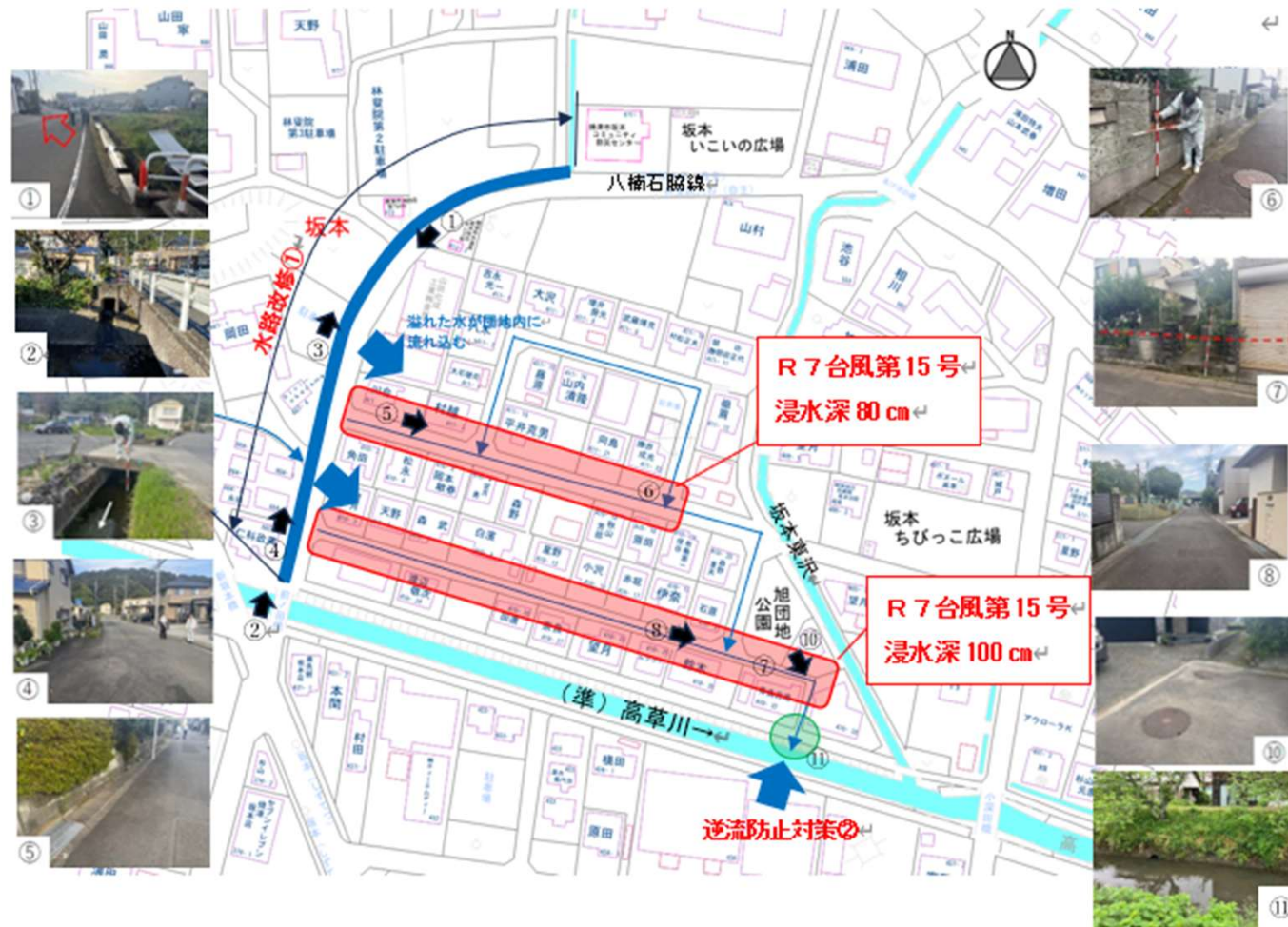
- 令和6年度債務負担の業務委託にて、整備内容の検討及び効果検証を実施。

■ 施策実施に係る課題

- 予算の確保が課題となる。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- 令和8年度は、水路の測量業務を予定。
- 令和9年度以降に設計・工事着手を予定。



1.3 流域の雨水貯留浸透機能の向上

民間等で設置された調整池の有効活用（石脇川流域） 実施主体：焼津市（河川課）

《施策内容》

既存の日本坂パーキングエリア調整池の流入口や流出口を改良し、既存民間施設の効率的かつ効果的な活用を図り、周辺の浸水被害の軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

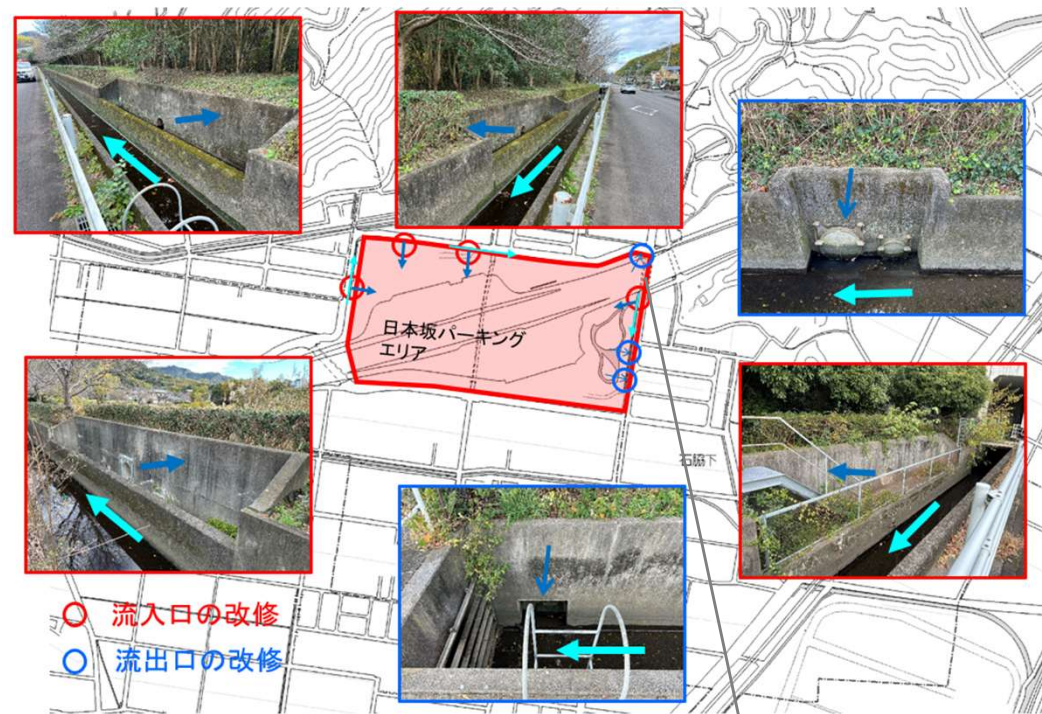
- 調整池の有効活用について、中日本高速道路（株）と協議し「水災害対策プラン」、「流域治水プロジェクト」への対策の位置付けや測量及び改良検討を行うことについて承諾を得ている。
- 令和6年度債務負担の業務委託にて、測量及び整備内容の検討、効果検証を実施。

■ 施策実施に係る課題

- 改良工事の実施にあたっては、引き続き中日本高速道路（株）との協議が必要。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- 中日本高速道路（株）と継続して協議を行い、改良工事の早期着手を目指す。



日本坂パーキングエリア調整池
・調整池容量30,200 m³
(※開発行為による必要調整池容量約6,100 m³に、盛土による湛水損失容量約24,000 m³を上乗せした容量としている。)



③令和6年8月台風第10号

1.3 流域の雨水貯留浸透機能の向上

雨水貯留施設の設置による流出抑制対策（石脇公園）（石脇川流域）

《施策内容》

既存の石脇公園を利用した雨水貯留施設を整備し、下流域の浸水被害の軽減と石脇川の負担軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

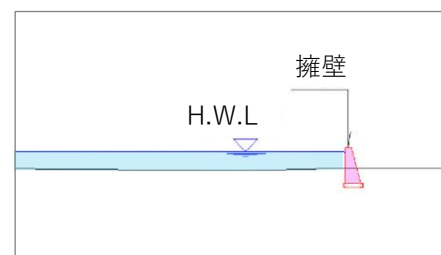
- ・ 令和5年度債務負担の業務委託にて、測量・設計を実施し、表面貯留にて $V=約1,700m^3$ を貯留させる設計業務を実施した。
- ・ 令和7年度に完成した。

■ 施策実施に係る課題

・ —

■ 課題への対応方針・今後の予定

・ —



横断面図
(公園の外周を擁壁等で囲い貯留させる)

1.1 持続可能な河道の流下能力の維持・向上 小石川中流部の遊水地の整備（小石川流域）

実施主体：焼津市（河川課）

《施策内容》

小石川の流下能力は全川にわたり1/2確率規模程度以下であるが、河川整備基本方針は策定中であり、下流からの河川改修にはかなりの時間を要する。また、JR東海道本線橋梁部がボトルネックとなっていることから、上流区間に遊水地を整備し、河川のピーク流量の減少による外水氾濫の軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

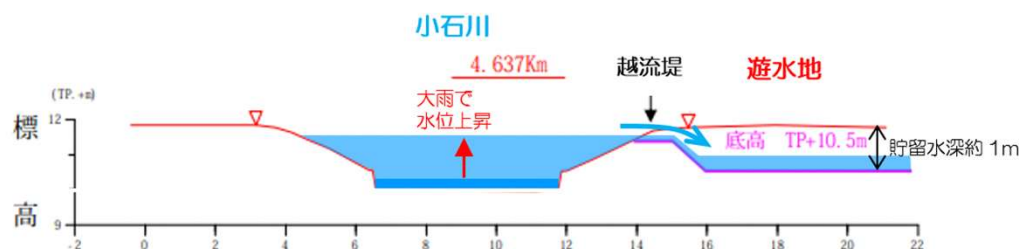
- ・ 令和4年度に、流出氾濫解析により環境管理センター広場を利用した遊水地の整備効果を確認した。
- ・ 令和5年度に実施設計。
- ・ 令和6年度に工事に着手し、令和7年5月に一部を除き完成した。

■ 施策実施に係る課題

- ・ 遊水地下流側の一部は、令和8年度に上水道布設工事が予定されていることから、施工時期について上水道工事との調整が必要。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ 水道工事の影響を受ける範囲は、令和8年度工事予定。



1.3 流域の雨水貯留施設浸透機能の向上

実施主体：焼津市（河川課）

雨水貯留施設の設置による流出抑制対策（焼津西小学校）

《施策内容》

学校用地（焼津西小学校の校庭）を活用した雨水貯留施設を整備し、下流域の浸水被害の軽減と小石川の負担軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

- ・ 学校関係者との協議を継続的に実施。
- ・ 貯留方式の検討と整備効果を検証する業務委託を発注。

■ 施策実施に係る課題

- ・ 既存施設の雨水貯留施設の設置となるため、学校関係者との協議を要する。
- ・ 実施設計、工事にかかる予算の確保が課題。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ 令和9年度以降に効果検証結果に基づいた測量・設計を実施し、雨水貯留施設の早期完成を目指す。



1.3 流域の雨水貯留浸透機能の向上 透水性舗装の整備（市道保福島大島新田線）

実施主体：焼津市（道路課）

《施策内容》

新設する歩道整備に透水性舗装を採用し、下流域における浸水被害の軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

- 市道 保福島大島新田線に新設する歩道舗装に透水性舗装を採用し、順次整備を実施している。

■ 施策実施に係る課題

- 事業予算の確保
- 用地取得
- 交通規制

■ 課題への対応方針・今後の予定

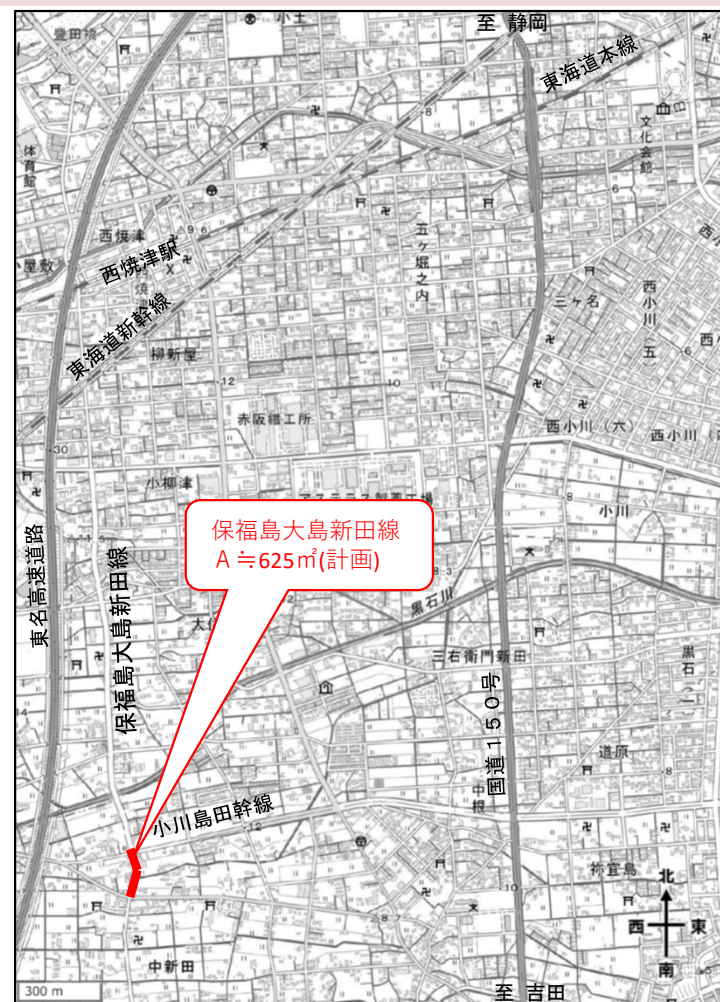
- 保福島大島新田線
令和10年の完了を目途に事業予算を確保し
用地取得するとともに歩道整備を推進する。

交通規制について、警察、島田土木、地元自治会と事前協議を行う。



透水性舗装

- 保福島大島新田線
A=約625m²（計画）



1.1 持続可能な河道の流下能力の維持・向上 (準) 栄田川の河道改修 (木屋川流域)

実施主体：焼津市 (河川課)

《施策内容》

二級河川木屋川支川の準用河川栄田川について、中流部の一部区間が未改修であることから、延長約200mの河川改修を行うことで、周辺の浸水被害の軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

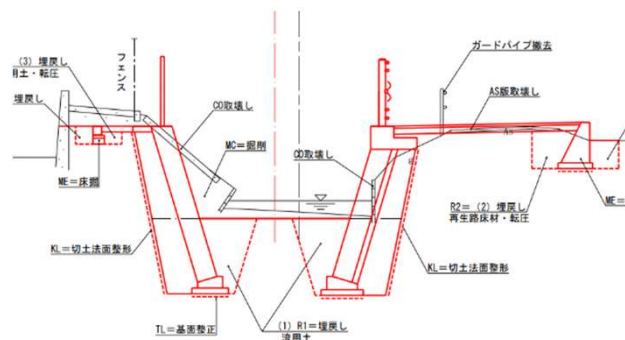
- ・ 令和6年度に、路線測量と詳細設計を実施。
- ・ 令和7年度は、用地測量及び物件調査を実施。

■ 施策実施に係る課題

- ・ 用地取得や物件補償、工事予算の確保が課題。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ 令和8年度は、用地取得、物件補償、不動産鑑定を予定。
- ・ 令和9年度より工事着手する予定。
- ・ 「緊急自然災害防止対策事業債」を活用していく。



1. 氾濫をできるだけ防ぐための対策

【栃山川・木屋川・成案川】

実施主体：焼津市（河川課）

1.1 持続可能な河道の流下能力の維持・向上 （準）栄田川の堤防嵩上げ（木屋川流域）

《施策内容》

二級河川木屋川に合流する準用河川栄田川は、潮位や木屋川の増水により、満潮と大雨が重なると栄田川の下流区間で溢水が生じる。

栄田川の下流区間のパラペット堤による嵩上げを実施し、外水氾濫の軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

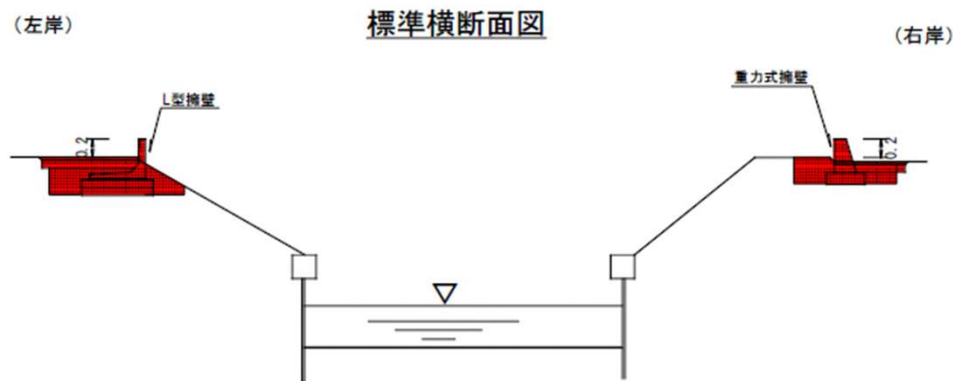
- ・ 令和4年度から嵩上げを実施し、現時点で約300mが完成した。

■ 施策実施に係る課題

- ・ 予算の確保が課題。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ 「緊急自然災害防止対策事業債」を活用していく。



1.3 流域の雨水貯留浸透機能の向上 雨水貯留浸透施設の検討・設置（新市立病院）（木屋川流域）

実施主体：焼津市（新病院建設課・河川課）

《施策内容》

市立総合病院の建て替えに伴い、駐車場の表面及び地下に雨水貯留施設を整備することで、木屋川流域における浸水被害の軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

- ・ 現在、新病院建設にかかる基本設計の見直しを行っている。（令和8年度まで掛かる見込み）

■ 施策実施に係る課題

- ・ 全敷地面積 $A=$ 約5.5haに対して、開発基準における必要調整池容量 $V=$ 約5,600 m^3 （排水能力の低い区域）を確保するにあたり、地下貯留施設の整備が必要となるため、事業費の増大が課題。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ 基本設計において、必要調整池容量を満たす計画を策定する。
- ・ 令和9年度以降に実施設計を行う。



新病院調整池

- ・ 計画貯留量約5600 m^3 （未定）
- ・ 計画敷地面積約5.5ha（未定）



※写真の赤線は現敷地を示しています。（2017年4月3日現在）

1.3 流域の雨水貯留浸透機能の向上

実施主体：焼津市（河川課）

雨水貯留浸透施設の検討・設置（中根公園）（木屋川流域）

《施策内容》

中根公園を利用した雨水貯留施設を整備し、下流域の浸水被害の軽減を図る。

■ 現在までの進捗状況

- ・ 令和6年度業務委託にて、測量・設計を実施し、表面貯留にて $V=約1,600m^3$ を貯留させる計画を策定した。
- ・ 令和7年度に工事が完成した。

■ 施策実施に係る課題

- ・ —

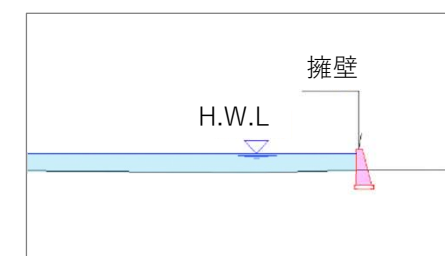
■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ —



中根公園（都市公園）

- ・ 貯留量 $V=約1,600m^3$
- ・ 貯留面積 $A=約6,500m^2$
- ・ 平均貯留水深30cm



横断面図

（公園の外周を擁壁等で囲い貯留させる）

1.3 流域の雨水貯留浸透機能の向上 水田貯留の推進

実施主体：焼津市（農政課）

《施策内容》

河川や水路の水位の急上昇を抑え、下流域の湛水被害リスクを低減させることを目的に、水田の排水口に流出量を抑制するための装置を設置して水田の雨水貯留能力の向上を図る。

■ 現在までの進捗状況

- ・ 焼津地区 1.98ヘクタールにて実施している。（令和7年度末）
（石脇川・高草川流域 0.52ヘクタール）
（栃山川・木屋川・成案寺川流域 1.46ヘクタール）

■ 施策実施に係る課題

- ・ 装置を設置する農業者の確保。
- ・ 田植え初期は、水田の水位を上昇させるとジャンボタニシの活動が活発化するため食害が発生する。
- ・ 大雨時には堰高の調整が必要。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ 新たに大井川地区（上小杉）において、田んぼダムを設置する予定である。
- ・ 多面的機能支払交付金の活動組織を中心に、設置への協力をお願いしていく。



1.4 氾濫流の抑制

雨水排水ポンプの整備（木屋川流域）（追加対策）

実施主体：焼津市（下水道課）

《施策内容》

河川からの背水などによる内水氾濫を軽減するため、逆流防止対策を図る。

■ 現在までの進捗状況

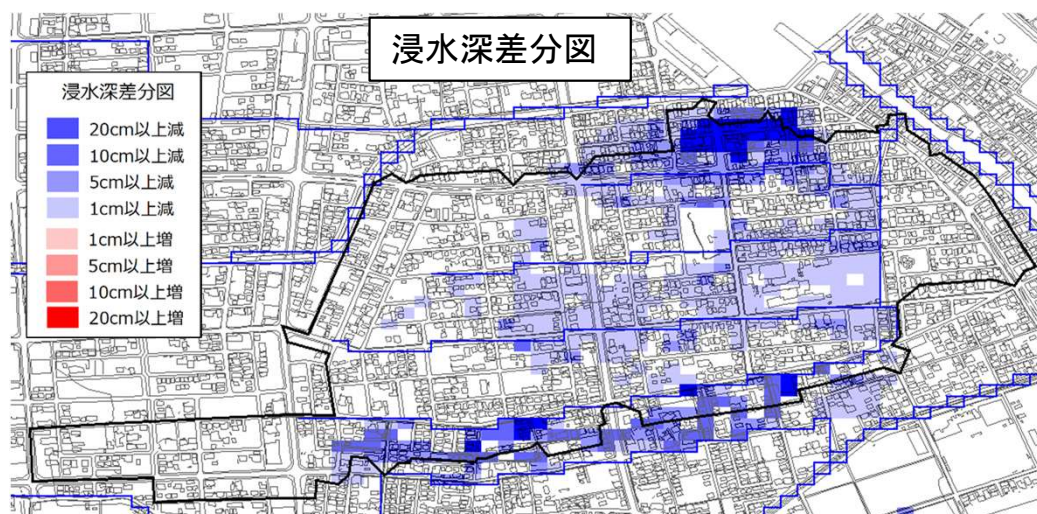
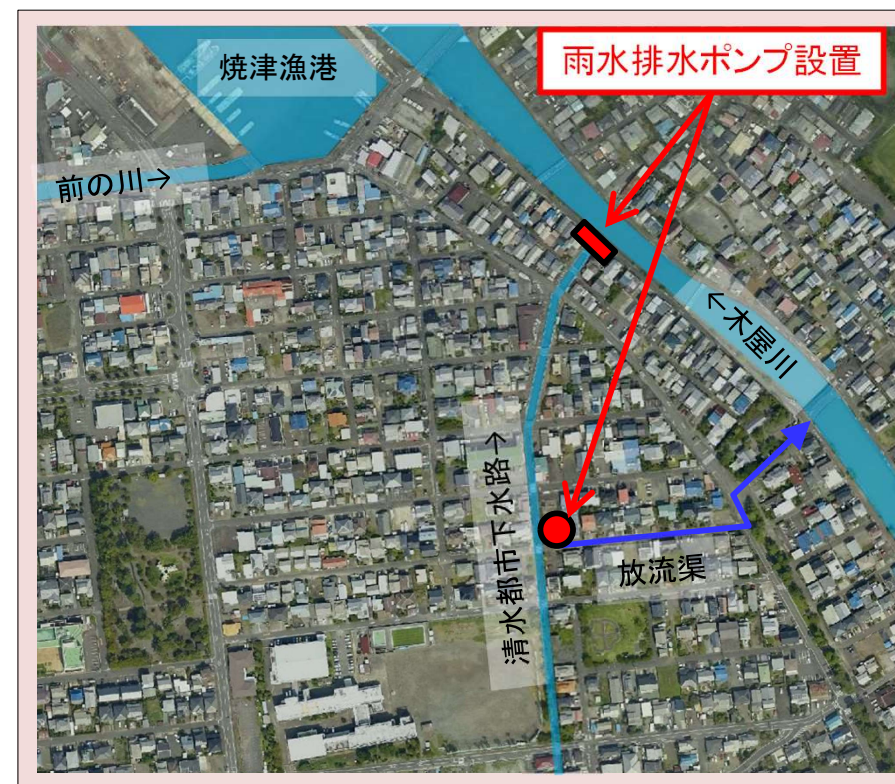
- ・ 雨水排水ポンプをはじめとした流域対策をモデル化し、浸水低減効果を確認。
- ・ 雨水排水ポンプの設置位置、排水量、停止水位を決定し、現在、河川管理者と協議中。

■ 施策実施に係る課題

- ・ —

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ 河川管理者と放流協議を行い、効果的な操作規定を作成する。



1.4 氾濫流の抑制

実施主体：焼津市（河川課）

(二)成案寺川支川水門の改良（成案寺川流域）（追加対策）

《施策内容》

河川からの逆流による内水氾濫を防止するため、水門を改良し逆流防止対策を図る。

■ 現在までの進捗状況

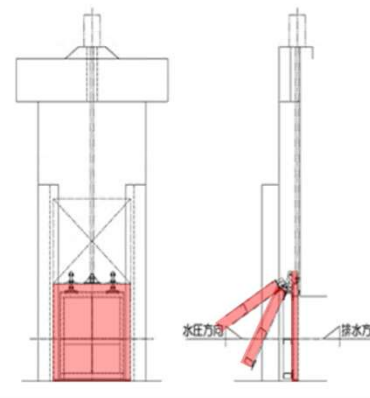
- ・ 既設水門は旧型でハンドル操作が重く、緊急時の人力による開閉が不可能であり、二級河川成案寺川が増水した際、支川に逆流し内水氾濫が発生している。

■ 施策実施に係る課題

- ・ 予算の確保が必要

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ 令和8年度に水門改良を予定。



【現状】

- ・ 開閉装置が旧型で開閉に必要な回転数が多く、ハンドル操作が重い
ため、緊急時の人力による開閉が不可
- ↓
- ・ 二級河川成案寺川が増水した際、逆流し内水氾濫が発生している

【改良内容】

- ①開閉装置の改良
- ②扉体の改良
(フラップゲート付き扉体に改良)

2.被害対象を減少させるための対策

2.1 土地利用事業の指導要綱の見直しによる適正指導

(協議会への提案)

提案市：焼津市（都市計画課）

《施策内容》

開発行為や土地利用事業で設置する調整池について、これまでの調整池容量から1.1倍の容量の確保を義務付け、流域全体で治水対策を行うことを目的とする。(対象範囲：全流域)

例：事業敷地2ha未満の場合 調整池容量 507m³/ha ⇒ 558m³/ha

■ 現在までの進捗状況

- ・令和6年10月志太流域治水協議会幹事会にて、県内統一の実施を要望もしくは流域市が同調して実施する対策として提案した。
- ・1.1倍の根拠として、令和5年に国から「開発区域内の雨水排水施設の規模の決定に当たっては、気候変動の影響を踏まえた計画降雨等（1.1倍）を算定することが望ましい。」との運用指針が示されている。

■ 施策実施に係る課題

- ・令和6年末、調整池容量の割り増しについて、県土地対策課より「県下全域の対応は難しい」旨の回答があり、「上記の国運用指針を各流域等で活用し、治水対策に反映させてほしい。」との意向を確認している。
- ・令和7年2月作業部会にて島田市及び藤枝市からは県内一斉での対応が望ましいとの回答になっている。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・民間事業への流出抑制の強化は重要であり、流域全体での取組みとなるよう引き続き関係部署と協議を進めたい。

国交省：雨水管理総合計画策定ガイドライン（案）で示された資料 資料 No.2

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言 改訂版【概要】
＜気候変動に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化＞

○降雨特性が類似している地域区分ごとに将来の降雨量変化倍率を計算し、将来の海面水温分布の幅や平均値等の評価を行った上で、降雨量変化倍率を設定。
○2℃上昇した場合の降雨量変化倍率は、北海道で1.15倍、その他（沖縄含む）地域で1.1倍、4℃上昇した場合の降雨量変化倍率は、北海道・九州北西部で1.4倍、その他（沖縄含む）地域で1.2倍とする。
○4℃上昇時には小流域・短時間降雨で影響が大きいため、別途降雨量変化倍率を設定する。

＜地域区分毎の降雨量変化倍率＞

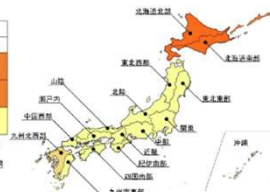
地域区分	2℃上昇	4℃上昇	
		短時間	長時間
北海道北部、北海道南部	1.15	1.4	1.5
九州北西部	1.1	1.4	1.5
その他（沖縄含む）地域	1.1	1.2	1.3

※ 4℃上昇の降雨量変化倍率のうち、短時間とは、降雨継続時間が3時間以上12時間未満のこと
※ 2時間未満の降雨に対しては適用できない
※ 流域面積100km²以上について適用する。ただし、100km²未満の場合についても降雨量変化倍率が今回設定した値より異なる可能性があることに留意しつつ適用可能とする。
※ 年超過確率1/200以上の規模（より高規模）の計画に適用する。

＜参考＞降雨量変化倍率をもとに算出した、流量変化倍率と洪水発生頻度の変化の一級水系における全国平均値

気候変動シナリオ	降雨量	流量	洪水発生頻度
2℃上昇時	約1.1倍	約1.2倍	約2倍
4℃上昇時	約1.3倍	約1.4倍	約4倍

※ 2℃、4℃上昇時の降雨量変化倍率は、産業革命以降に比べて全種平均値が下りた2℃、4℃上昇した状態をシミュレーションしたモデルから算出
※ 流量変化倍率は、降雨量変化倍率を1.1倍、1.4倍、1.5倍とし、一級水系の治水計画の目標とする流量（1/100～1/200）の流量の変化率から算出
※ 日本全土平均の洪水発生頻度は、1年あたり約1.5回（1/100～1/200）
※ 日本全土平均の洪水発生頻度は、1年あたり約1.5回（1/100～1/200）
※ 日本全土平均の洪水発生頻度は、1年あたり約1.5回（1/100～1/200）
※ 日本全土平均の洪水発生頻度は、1年あたり約1.5回（1/100～1/200）



令和6年度 調整池・浸透柵申請実績

調整池		浸透柵（1.5m ³ /戸）	
申請件数	18件	申請件数（戸数）	51戸
合計容量	4,093m ³	合計容量	76.5m ³

3.2 避難体制の強化 水位観測施設・監視カメラの設置

実施主体：焼津市（河川課）

《施策内容》

黒石川支川の準用河川泓の川に河川水位計を1基設置し、カメラ画像や水位・雨量情報などを一元化した焼津市水防監視システムを充実させることで、迅速かつ効果的な情報収集と市民への情報発信を図る。

■ 現在までの進捗状況

- ・ 令和7年度に準用河川泓の川に河川監視カメラを1基設置した。
- ・ 焼津市水防監視システムとして、河川監視カメラ6基、水位計4基、雨量計2基を設置。

■ 施策実施に係る課題

- ・ 施設の初期費用、維持管理コストの削減が課題。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ 令和8年度に泓の川に河川水位計1基の設置する予定。
- ・ 施設更新のタイミングで、より安価な設備への変更などによる経費削減を検討していく。



水位計設置イメージ



水位計設置箇所(案)

3.1 避難体制の強化 排水ポンプ車の増設

実施主体：焼津市（河川課）

《施策内容》

浸水常襲地区に「排水ポンプ車」、「可搬式排水ポンプ」を配備し、木屋川流域ほかの浸水被害の軽減や浸水被害の早期復旧を図る。

■ 現在までの進捗状況

- ・ 過年度に排水ポンプ車 1 台を購入している。
- ・ 出水時には浸水常襲地区に出動し、排水作業を実施。
- ・ 令和 7 年度に排水ポンプ車 1 台と可搬式排水ポンプ 1 台を購入。

■ 施策実施に係る課題

—

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・ 令和 8 年の出水期から、排水ポンプ車 3 台による運用を開始する。

想定配備箇所 木屋川流域浸水常襲箇所 市道栄田線周辺道路



可搬排水式ポンプ 15m³/分



排水ポンプ車 30m³/分

3.被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

3.3 避難体制の強化 水防活動の支援

実施主体：焼津市（防災計画課）

《施策内容》

市内の冠水状況等を把握するため、市職員や消防団等が投稿した写真等を地図サイト上へリアルタイムに表示するサービスであり、市民の安全な避難行動の促進を図る。

■ 現在までの進捗状況

- ・市職員や消防団等の関係者へ投稿方法の説明会を実施し、災害状況等の投稿を促した。
- ・台風第15号の際、市内の竜巻や冠水状況等を約100件投稿した。

■ 施策実施に係る課題

- ・写真による冠水状況等の投稿を行う際、わかりやすく、且つ個人情報等を伏せた投稿を行う等の統一した投稿ルールを示していく必要がある。

■ 課題への対応方針・今後の予定

- ・台風第15号での投稿を整理して、投稿者からの意見等を聴取し投稿ルールを簡単にまとめた資料を関係者に共有する。
- ・現状関係者のみの投稿となっているため、投稿者の範囲を市民まで広げていくのか検討が必要となる。

